

電気使わない冷凍・冷蔵システム

ICE、インド市場開拓

鉄道貨物最 大手と提携 輸送試験を開始

コールドチェーン物流商品の開発・ソリューション提供などを手がけるアイ・ティ・イー(ICE、東京都千代田区)は、始発開港した電気不使用の冷凍・冷蔵システム「アイスバッテリー」でインドの物流市場を開拓する。このほか国境鉄道貨物大手とパートナー契約を締結し、北米・中南米・東南アジア諸国などをターゲットに採用コンテナでの低温度輸送サービス試験を開始。アイスバッテリーを活用した定温倉庫を同国で稼働する検討も開始した。日本で培った実績、ノウハウを生かし、成長市場におけるコールドチェーン物流の高度化に貢献していく。

定温倉庫整備も検討

度Cの環境で最大1000時間の「定温度(0マイナス55)プラス0度C」と湿度の保持が可能。積載枚数を増やすれば「定温度を維持できる日数を増やす」ことも可能。日本では100社以上に導入された。専用のコンテナは、アイスバッテリーとコンテナレザラーで構成した専用ハイブリッドタイプ。コンテナレザラーと連結した

ンを一切使用しないため、インフラ供給が十分な地域が限られるインドにも普及が可能なメリットもある。

インドでの普及を目的にパートナー契約を締結したのは、国境鉄道貨物大手のコンテナ・オブ・インディア・グループ(COIN)で、ICEはCOINに後、アイスバッテリーを活用した低温での貨物輸送サービス「アイスバッテリー」をインドに展開する。ICEはCOINと共同で建設することをお計画している。



アイスバッテリー20フィートハイブリッドコンテナ

アイスバッテリーは、専用のコンテナレザラーと連結した専用ハイブリッドタイプ。コンテナレザラーと連結した専用ハイブリッドタイプ。コンテナレザラーと連結した専用ハイブリッドタイプ。

日本郵船グループ

サイバーセキュリティマネジメントシステム CSMS 認証取得

日本海事協会での初事例

日本郵船グループの船舶管理会社NKK、LNG船オペレーターLNGS&M、船社が管理するLNG船PACIFIC MIMO S.A.はこのほど、日本郵船協会(CIARRANK)からサイバーセキュリティマネジメントシステム(CSMS)の認証を取得した。日本郵船協会による初めてのCSMS認証事例となる。今後、他のLNG船や船舶においてサイバーセキュリティに関する認証を強化していく予定。

CSMSは、日本郵船協会が船舶運航の安全確保を目的として昨年3月に発行したガイドライン「船舶の安全」に基づき、船舶のサイバーセキュリティを確保するための活動の指針として、運航中のリスクへの管理策を定む。国際海事連盟が定めるOIA(船上に設置される)で、事故を防止するために船員が船の手帳を管理している船主と船の安全管理システム(CSMS)との連携の中で、日々の取扱い、どこが重要

船舶の安全

共同開発で合音

開発型診断世次子
機アプ
機(東京都千代田区)お
NKKコンサルティングサ
サービス(NKKIS、東京
機(東京都千代田区)お
機(東京都千代田区)お
機(東京都千代田区)お
機(東京都千代田区)お

機(東京都千代田区)お
機(東京都千代田区)お
機(東京都千代田区)お
機(東京都千代田区)お
機(東京都千代田区)お